

登録コード	E8401300	開講年度	2026			
授業科目	理科教育演習　A				担当教員	藤森　隼一
英文授業名	Seminar in Science Education				副担当	
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当					
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 6 E カリ，2 5 E カリ，2 4 E カリ，2 3 E カリ，2 2 E カリ，2 1 E カリ，2 0 E カリ					
	教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観				理科の授業を分析し、評価することができる。	
	教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能				理科の授業を分析し、評価することができる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	臨床的な理科教育研究を推進できる資質・能力を習得します。 (1)先行研究における調査報告・論文等の文献調査の適切な実施 (2)自らによる適切な研究課題の設定 (3)その研究課題を解決するための具体的な調査方法の適切な立案 (4)結果の適切な分析処理方法の理解と企画 (5)パワーポイントなどを利用したプレゼンテーションの適切な実施					
(5)授業計画	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：量的研究 第 3 回：実験群と統制群 第 4 回：質的研究 第 5 回：プロトコルと分析 第 6 回：量的研究と質的研究の融合 第 7 回：先行研究の調査 第 8 回：先行研究の記載と分析 第 9 回：研究課題設定の方法 第10回：研究方法のプランニング（対象，内容等） 第11回：研究方法のプランニング（用語の定義，具体的方法） 第12回：分析方法のプランニング 第13回：臨床的な理科教育研究のプレゼンテーション法 第14回：臨床的な理科教育研究の総括，授業アンケート					
(6)成績評価の方法	成績評価の考え方は、次のとおりである。 ・「理科教育研究推進力」が修得できたかどうかを，教育実践研究の教材実験や調査に関するレポートの内容（1 0 %）で評価します。 ・「理科教育研究推進力」が修得できたかどうかを，教材実験調査の推進に向けた計画（1 0 %）で評価します。 ・「理科教育研究評価力」「自己研鑽能力」が修得できたかどうかを，分析（1 0 %），考察及び討論の内容（1 0 %）で評価します。 ・自ら進んで「理科の教育研究を進める上で，必要な理科教育研究企画力，理科教育研究推進力，理科教育研究評価力，自己研鑽能力を習得」する意欲や態度が習得できているかどうかを，授業態度（1 0 %）で評価します。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上　秀，89-80%　優，79-70%　良，69-60%　可，59%以下　不可。					
(7)成績評価の基準	（　）文献や資料を丹念に調べ，（　）それをまとめるとともに関連する情報を精査して列挙し，（　）その上でそれらに対する自分の見解を提示できており，かつ，教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（　）から（　）の3項目をすべて満たしていれば教員を感心させるレベルになくとも「かなり上にある」。関連する情報が十分でなくとも教員を感心させるレベルにあれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。					
(8)事前事後学習の内容	・毎週，その前の週の授業内容の全員の理解度を講義の冒頭で確認するとともに，当該週で取り扱う内容に関して1週間で調べてきた関連情報を全員に発表してもらうので予習をして臨むこと。この授業は45時間の学修を必要とする内容です。従って，30時間以上の時間外学習が必要となります。					
(9)履修上の注意	・ゼミ形式で進めますので全回出席願います。 ・児童生徒の実態を基に教育研究を進める皆さんは，この授業を必ず受講願います。 ・実際の学校現場に調査に入ることもありますので，そのつもりで準備願います。 ・本授業を漫然と受けるだけでなく，授業以外の時間を有効に活用し，自らの問題意識に基づいて見通しを持って積極的に文献収集し，結果を残すように努めることが肝要です。					
(10)質問，相談への対応及び連絡先	在室であればいつでも，W313室，fujimori_junichi@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	・必要に応じて適宜紹介します。					

【参考文献】	・必要に応じて適宜紹介します。
--------	-----------------